

データで西浦を読む

西浦の飲食店（総論編）

今回からは、西浦町の飲食店の特徴についてまとめていきます。

西浦町には飲食店が73店舗存在します。西浦町の人口は6469人であり、ここから計算すると西浦町の1000人あたりの飲食店数は約11.3店舗ということになります。京都市全体を見てみると、京都市の1000人当たりの飲食店数は6.18店舗となっています（平成28年総務省統計）。また、京都府内の市区町村の1000人当たりの飲食店数の平均は3.35店舗です（平成28年総務省統計）。これらのことから、

西浦町は人口に対して飲食店の数が多いということが分かります。

さて、そんな西浦町には中国出身の方が経営されている本場の中華料理店「ガチ中華」が多いという特徴があります。西浦町にある飲食店73店舗のうち10店舗が中華料理店であり、そのうち7店舗が中国出身の方が経営されています。ガチ中華が多い要因としては、JCL 外国語学院があることから中国人留学生の方が多く暮らされており、地元の味を好まれる方が多いことが考えられます。また、中華料理店

が多い要因としては地域の環境も挙げられます。平成23年の厚生労働省の調査によると、中華料理店の立地は住宅地区が最も多く、土地区画整理事業により住宅街として整備されている西浦町はこの特徴に当てはまっているのです。西浦町はこのような様々な要件が重なり、中華料理店が増加したものと思われます。

飲食店という視点から見ても特色のある西浦町。今後も西浦通信を通してその魅力を多くの人に伝えるため、邁進してまいります。（中岡）

西浦うまいところルポ

— CHINESE TABLE esora（チャイニーズテーブルエソラ）

今回の西浦うまいところルポでは、CHINESE TABLE esora（エソラ）さんに、うかがわせていただきました。

esoraさんは、ランチには、担々麺を7種類提供されており、夜には、コース料理を提供されています。四条などの街中に建ち並んでいるような本格的なレストランを、西浦で楽しむことができます。

インタビューでは、オーナーシェフである山内さんにお話を聞かせていただきました。西浦町でお店を始めた理由は、元々地元である西浦町に愛着があったことや、家族の暮らしやすさを考えたからだそうです。お店の名前であるesoraの由来は、「絵空事」から来ており、このお店自体が山内さんの絵空事であるとおっしゃっていました。

料理のこだわりは点心を手作りで提供することや、他のお店と違ったテイストの担々麺を提供することだそうです。今回、人気メニューである、ブラック担々麺を実際にいただきました。辛

そうな見た目とは裏腹に、食べやすく、「うまがらい」担々麺でした。辛いのが苦手な人に向けた担々麺もあるらしく、子どもでも食べられる担々麺も提供されているそうです。CHINESE TABLE esoraさんでは、本格的な中華料理を西浦町で楽しむことができます。今回は、ブラック担々麺をいただきましたが、他のメニューもいただきたいと思います。（遠井）



CHINESE TABLE esora の位置





西浦歳時記



9月の和風月名は長月と呼びます。秋の夜長を意味する「夜長月」が短くなったと言われていました。長月の名前の由来のように、真夏に比べると日が沈む時間がずいぶん早く、夜が長くなりましたね。また、日中はまだまだ暑いですが、朝晩は次第に気温が下がり温度差が大きく、気温の変動に注意が必要です。さて、9月の行事といえば十五夜があります。十五夜は「中秋の名月」と呼ばれる秋の美しい月を鑑賞しながら、秋の収穫に感謝する行事です。旧暦8月15日の満月の夜、月見団子と芋などの農作物や果物を供えてススキを飾って月を祭ります。十五夜は日本の秋の風物詩ともいえますよね。また、9月1日は防災の日です。防災の日は関東大震災の起きた日に由来し、毎年9月1日とされています。災害はいつ起こるかわかりません。そのため、日頃からしもに備え、防災についての意識を高めましょう。（上

特集 多様性・異文化理解ワークショップ

6月30日と7月7日に砂川小学校・うずらの里児童館にて多様性・異文化理解のワークショップが開催されました。今回は、ホストとしてワークショップの開催を主導した龍谷大学政策学部村田和代ゼミナールの学生が、その様子を振り返ります。



■ワークショップ実施までの経緯

6/30日と7/7日に、龍谷大学において、砂川小学校と西浦町内の「うずらの里児童館」との多様性・異文化理解のワークショップが実施された。

このワークショップでは、政策学部の村田和代ゼミナールが実施し、龍谷大学の短期留学生が共に参加して、異文化と触れ合う機会を創生した。

6月30日には、「うずらの里児童館」の小学生（1～6年生）が参加し、7月7日には「うずらの里児童館 砂川小学校分館」の小学生（主に1～4年生）が参加した。

ワークショップの目的は、「幼少期に異文化に触れる機会を創生し、異文化に対する壁や偏見を取り払うことにつなげる」ことである。

ワークショップ実施は、「グローバル・コミュニケーション英語A」という科目内で実施され、その授業内で「西浦町と私たち村田和代ゼミナールはつながりがあり、町内で活動しているので、せっかくなら西浦町内のうずらの里児童館」と連携を取って、子供たちのグローバルマインドの育成に繋げ、今後の西浦町の発展に繋がることにできないか」ということで、今回のワークショップに、「うずらの里児童館」に協力して頂き、実施・成功に至ることができた。

また、近日「うずらの里児童館」に訪問させて頂いた際には、「異文化理解のワークショップはとても良かった、西浦町の強みである多様性を活かし、それを段階的に発展させていけそう、このような取り組みを継続してほしい」とのお言葉を頂けたので、ワークショップは大成功であったと考える。（谷川）

■6・30日感想・詳細・活動内容

政策学部 村田和代ゼミのメンバーと交換留学生との国際共修プロジェクトで、6月30日に子ども向けワークショップを開催しました。

ワークショップに参加したのは、深草西浦町にあるうずら児童館の学童クラブに通う小学生25名（砂川小学校1年生から6年生）です。デンマーク、ドイツ、オーストラリア、香港、マレーシア出身の留学生6名と、和代ゼミ生3名がファシリテーターとなってワークショップをすすめました。

ワークショップでは、まずはじめに自己紹介を行いました。自己紹介では、留学生たちがパワーポイントを使って自分のことや自国の紹介を行いました。

様々な国の留学生がいたので、子どもたちに色々な文化や国を知ってもらえました。そして次にファイヤーゲームという海外のゲームを行いました。ファイヤーゲームは、音楽をかけて走っている時に、ファイヤー・ウォーター・エア・アースのいずれかの単語が聞こえてくるので、決まったジェスチャーを行うというゲームです。室内でも体を動かすことができ、子供達にもとても人気のゲームで盛り上がりました。

最後にマカレナダンスという世界で有名なダンスをみんなで円になり踊りました。

ワークショップの準備では、意見や価値観の相違や、お互いの母語が異なることでうまく意思疎通できないこともあり、なかなか進まないときもありましたが、チームで一つの活動ができたことは、達成感を感じることができ、今後のゼミ活動にも繋げていきたいと考えています。（西村・西角・山根）



■7/7日感想・詳細・活動内容

7月7日に龍谷大学の学生である私たちが主催して、砂川小学校に通う児童館の子供達と龍谷大学の8人の留学生でワークショップを行いました！

最初に、私たちと留学生が子供たちに自己紹介を行い、留学生たちはそれぞれの国の言語で挨拶をしました。それを聞いた子供たちが真似て挨拶を返してくれ、留学生達も嬉しそうにしていました。違う言語で聞き馴染みのない名前は、一回では聞き取れないこともありましたが、子供達は聞き取ろうとする姿勢を見せてくれました。

ワークショップでは、椅子取りゲームをしたりジェスチャーゲームをしました。ジェスチャーゲームでは写真の下に英語で名前を書いたり、椅子取りゲームでは英語の歌を使い、留学生も参加するなど、気軽に異文化に触れることができる素晴らしい体験になりました！

また、帰る時にはそれぞれの国の言語で挨拶をし、日本語が苦手な留学生も英語に慣れていない子供達も仲良くなっているようで、最初よりもグッと近い存在になったように見られました。

後日行ったアンケートでは、普段経験できないことができて良かったや、外国の方とまた遊びたい、また話したいなどの声があり、私たちにとってもワークショップを行って良かったと感じました。

私たちは小さい時からこのような経験をすることで、多様性を受容できる力を身につけることができるのではないかと考えています。

これからもこのような機会を作れるようゼミ一体となって活動していこうと思います！（竺原・橋本・塚本）